

荒尾市人口ビジョンの将来展望人口(案)について

本市における長期的な人口の将来展望を定めている荒尾市人口ビジョンにおいては、2060年に42,000人という人口目標を設定している。第6次荒尾市総合計画(仮称)策定に合わせた荒尾市人口ビジョンにおける将来展望人口の検討方針については、国の方針とも整合を図りつつ、以下のとおりとする。

○第2期「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の検討状況

(まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 から抜粋)

- ・「長期ビジョン」については、現在の人口等の見通しが第1期の当初時点における推計と大きく乖離していないことや、外国人については長期にわたる出入国の状況を見通すことが困難であることを踏まえ、時点修正など必要な検討を行う。
- ・「地方人口ビジョン」については、中長期的には人口の自然増が重要であるという観点を重視しつつ、最新の数値や状況の変化を踏まえた上で必要な見直しを検討することが求められる。

○荒尾市人口ビジョンにおける将来展望人口の検討方針(案)

- ・現時点では人口ビジョンの計画期間の中間である(荒尾市総合計画条例施行規則第4条：人口ビジョンの計画期間は10年を基準とする)。
- ・H30.10.1時点で、計画終期の人口展望を約1,000人下回っている状況である。
- ・合計特殊出生率については、将来目標を達成する水準で推移しており、次の目標である「2030年に2.1」に向け、さらに取組みを強化する見通しである。
- ・社会動態については将来目標を下回る状況であるが、今後、南新地地区土地区画整理事業など、社会動態の改善に向けた新たな取組みを推進する予定である。
- ・今後の外国人の本市への転入状況については、国同様、現時点では見通すことが困難である。

現時点で将来展望人口を下回っているものの、南新地地区における宅地造成などを通じ大幅な転入増加も見込まれることから、将来展望人口である「2060年に42,000人」は変更しないこととする。現行の人口ビジョンにおける将来展望算出に当たった条件(合計特殊出生率と人口移動)について、①合計特殊出生率については、引き続き、2030年に2.1とすることを目指す
②人口移動については、計画終期である2025年までに社会減が1/10程度(約▲20人)に縮小し、南新地土地区画整理事業の工事完了(2025年を予定)以降、転出入が均衡することを目指すこととし、最新の国勢調査等の結果や南新地地区における計画人口※なども踏まえ、再度将来展望を算出することとする。

(※30歳代の男女各300人、10歳未満の男女各150人、60歳代の男女50人ずつと仮定。)